

人

面坂を抜けると、つきあたりに大きな池と、それを囲む椅子がある。ホッとひと息つける。さわやかな休憩場所。のはすがない。おそろおそろ座ってみると、大仕掛けのアトラクションのはじまりはじまり。いったいどうしてこの町は、もののけたちに占領されてしまったのか。その真実が明らかになるのが、「お玉ヶ淵 水の妖怪「沼巫女」と琵琶を持った「ものけ法師」の弾き語り、人間をものけから守ろうとした猫神旅館の飼い猫たまが、化け猫「ぬまたま」にされてしまった悲しい過去が再現される。

ドラマチックな物語を知っていると、「ものけ番外地」めくりが数倍楽しくなること確かだから、見逃さないように。法師の声はもの悲しくて、琵琶の音色は淋しい。じくじく腰を落ちつけて、語りの世界に耳を傾けてみよう。そして、視線は舞台へ。ダイナミックな映像で再現される「ぬまたま」は、迫力。画面に引き込まれて夢中になっていると、今度は振動や水がフェスタリアンに襲いかかるから注意。これも、ものけたちによるイタズラなのだ。

かつては平穏だったこの町には、身の毛もよだつ過去が隠れています。勇気を出して戦った、かわいい子猫のたまが、あのゴーストともいえるぬまたまに化け猫に……。またのページをご覧ください。

怖い怖い私の話を花魁の音で、どうぞ聞いていってください。



お玉ヶ淵

お玉ヶ淵

「ぬまたま」誕生シーンを鮮やかに再現する弾き語りショーが行われていて、いつも大勢の人が聞き入っている。いよいよこれから「ものけ番外地」めぐりも佳境に入るので、気を引き締めて状況を把握しなければならぬからだ。思わず涙が...てのはオーバーだけど、リアルなCG画面を駆使した立体的な構成は一見の価値あり。



お玉ヶ淵のそばの暗がり、うち捨てられたような日本人形が二つ。何気なく歩いていると絶対に気が付かない。そんな驚異な仕掛けが街中にあるんだ。



妖怪コラム

そもそも「ものけ」ってナニ?



「ものけ」という言葉は、も(霊)の気病気の意味で、人ととりついて来る霊や妖怪のこと。源氏物語(紫式部)や枕草子(清少納言)などの古典にも、その言葉が出てくるほど古い言葉なのだ。

人を恨んだり嫉妬したりすると、その思いは肉体を離れて勝手に行動すると考えられた。いまだって「たり」なんて言葉が生きているように、日本人はずっと、目に見えない霊の存在を信じてきたんだよね。もう21世紀も目の前なのに、いまだにほくたちは「ものけ」の存在をほんやり感じたりするのだ。

さて「ものけ」は目に見えないから、人々はいろんな想像をふくらませてきた。なかには河童のように、現在まで受け継がれているものまである。それどころか妖怪がどっさり出てくる「ゲゲゲの鬼太郎」などは子供だって知っている。そこでは彼らが持つ超人的な力や、科学では説明できない世界が「悪をやっつける」ために使われていたりもする。だって「ものけ」はもともと人間が作り出したもの。そのなかには邪悪なものばかりじゃなく、人に愛されるキャラクターがいたりして不思議じゃないのだ。

というわけで聞き慣れないけどどこか懐かしい響きを持つ「ものけ」。ナンジャタウンに出没するのはいたずら好きで楽しいやつらなんだ。少しばかり悪ぶさけしすぎるときもあるけど、かわいくなってやってくれい。

逆柱のほころ

ものけの妖力で空に向かって根を伸ばし始めた柱を持つほころ。見るからにただではすまない雰囲気だ。扉の中にさかさまの女の顔が……。



お玉ヶ淵の脇にある、髪の毛を逆立てたような根が屋根を突き破って伸びている奇怪なほころ。

怪談 猫神旅館

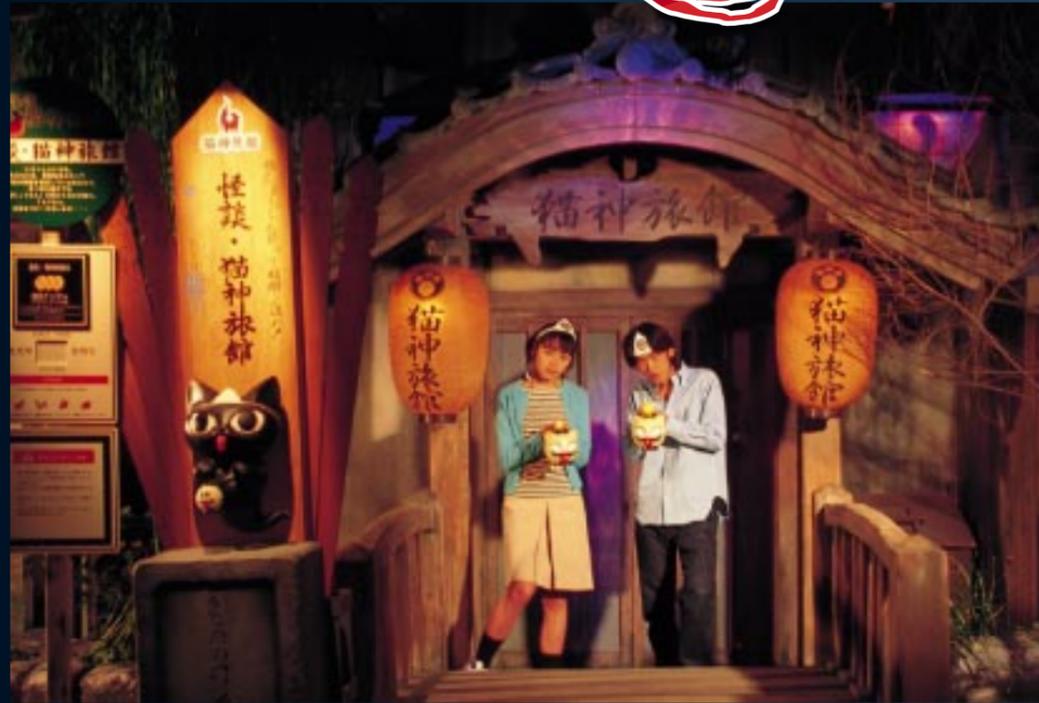


闇の中にホラー感溢れる旅館の従業員「いちごちゃん」の声に、とてとなく黄泉の国の響きが……



かつて悪夢のような悲劇の舞台となった猫神旅館は、ものけがとりついた日から恐怖の旅館になってしまった。そこでフェスタリアンは「怪奇新聞社」の記者となり、「猫ちゃんちゃん」のついた灯台を頼りに、この旅館で起きた現象取材するのだ。恐怖の再現は「猫ちゃんちゃん」を指定の場所に置くことと始まる。しっかりと目を見開いて、そこで起こったことを記憶するがよい。

たとえば、掛け軸の中の美人がユレイに変わったかと思つと空気の音が突然「パン」と響く……。そうそくに灯をともすと長い廊下が浮き出てきて、奥から座布団に座った老婆が空巾着をこちらに向かって滑ってくる……。あるいはまた、仏壇にあらわれた自分の姿が、いつしか死人の顔になってしまつ……。はつきり言つてかなり「ワイ」ところもあるけれど、新聞記者がそれくらいでメゲちゃいけない。撤退は許されないのだ。考えてみれば、猫神旅館で起こったことは、ほくたちが子供の頃、夏になると怖いものみたくて聞いた、日本の怪談話に似ている。かつてはみんなが、こつて怖い思いを味わっていたんだよね。



「ものけ番外地」の人気アイテムのひとつが猫ちゃんライト。発光ライトが怪しく光る定番モノ。



プロジェクターを使用した仕掛け、振動の驚き、突然飛び出してくるものけたちなど、灯をともすたびに記者に襲いかかる難関は多彩だから、あんまり甘く見ると「助けて」なんて叫ぶことにもなりかねない。「ユレイや妖怪なんか存在しないさ」と強気のキミほどアブナかったりして。



昔の旅館ってこんな感じだったのかもと思わせるディテールの確かさが気分を盛り上げる。特撮とかが好きなら、造形に見とれてしまうかもね。順路に従って取材を進めていけば、ああこういうことだったのかとすべてナットクできるはずだ。そうそう、ひとつだけ教えてあげよう。これですべて終わったとホッとした直後に注意!



トイレの前にあるやぶれ提灯。トイレへ行くときにも油断がならないのだから本当にここは徹底してるなあ。